

# アイヌタイムズ 第60号 日本語版

---

---

---

## ★ シラカバ花粉症

本州ではスギ花粉症が有名ですが、北海道ではスギ花粉の飛散は少なく、シラカバ花粉が多く飛散しています。

シラカバ花粉は春とともにやってきます。春には、多くの人が戸外にでてきます。ゴールデンウィーク前から6月の初めまでの間、風が吹いてシラカバの花粉が飛散します。

シラカバの花粉は直径が1ミリメートルの40分の1前後で、3つの突起(花粉管口)を持つ特徴的な形をしています(図1)。

シラカバの花粉を吸い続けると、これまでシラカバ花粉症の症状を示さなかった人でもある年から突然発症する恐れがあります。正確な患者数は把握できていませんが、北海道

では最近シラカバ花粉症患者が増えてきていると言われてしています。

シラカバ花粉症は北海道に限られたものと思われがちですが、世界的に見るとヨーロッパ北部やアメリカ北部などでも以前からあるものです。

花粉症は花粉に含まれる特定の蛋白質が原因で起こるアレルギー疾患で、症状は、目の痒み、鼻水、くしゃみ、鼻詰まりなどです。シラカバ花粉症患者の何割かは果物過敏症を併発し、リンゴ、サクランボ、キウイ、梨、桃、イチゴ、メロン、プラム、柿などを食べると口の中が痒くなったり、重症になると吐

いたりすることがあるといわれています。

北海道立衛生研究所では1996年から空中のシラカバ花粉の観測を開始し、現在では保健所の協力を得て道内主要5都市(函館、札幌、岩見沢、旭川、帯広、北見)で観測を行っています。5都市の中では、シラカバ花粉が最も多く飛散するのが札幌で、岩見沢、旭川、北見、帯広、函館と順に少なくなっていく傾向がありました。なお函館ではスギ花粉も多く飛散するため、スギ花粉の観測も行っています。

北海道の主な花粉症は、4月下旬～6月上旬のシラカバ花粉症、5月下旬～7月上旬の牧草(イネ科)花粉症、8月下旬～9月前半のヨモギ花粉症です。上記以外の花粉(イチイ、マツ等)についても札幌では調査を行っています。

これらの観測・解析結果は「花粉情報」として当所のホームページで提供しております。

<http://www.iph.pref.hokkaido.jp>

[横山 裕之] 沙流・千歳